

自然と色、一期一会の感動を描く

自主教室 守山市日本画教室

芸術の秋。
守山市美術展覧会の出品を
大きな目標に、趣味の日本画
で日本の自然を描く、自主教
室「守山市日本画教室」を取
材しました。



市美展で仲間の作品を鑑賞するメンバーたち



教室で写真による市美展の鑑賞会

市美展の出品を目標に
最後の仕上げに一生懸命

日本画のルーツは奈良時代や
平安時代に中国や朝鮮半島から
渡来した技法や様式が日本で熟
成し、独自に発展した芸術とい
われています。

9月24日は守山市美術展覧会
の出品日。市民ホールで活動し
ている自主教室「守山市日本画
教室」では、同展覧会の出品を目
標と励みに作品を描いている
メンバーが多いので、この日は
皆さん作品の仕上げに一生懸命
です。講師の平田豊先生からア
ドバイスを受けたり、仲間同士
で仕上がりを確認しあったり、
手直しのために最後の筆を入れ
たり、作品のタイトルが思いつ
かずに悩んだり。エイツと覚悟
を決めて「完成」した作品を受
け付けに運んで出品手続きをし
ました。

室が始まる前に、展覧会でそれ
ぞれ自分の作品や仲間の作品を
鑑賞していました。教室が始ま
ると、目標達成の打ち上げもか
ねてお茶とお菓子で笑みをこぼ
しながら、日本画作品のすべて
を写真で鑑賞、次の創作に生か
せるよう、それぞれの感想を話
しあって学びました。

描くことで発見し感動する
発足当時の思いは変わらず

公民館講座で日本画を学んだ
生徒が集まり、30年以上も前に
「守山市日本画教室」は誕生しま
した。美術展覧会、教室展、
小作品展が主な発表の場であり、
メンバーはそれらを目標に創作
に励んでいます。

30年という歳月には、さまざま
なことがありました。自主教室
の発足から携わっていた講師
の故平田節子先生は病のため
辞してしまいましたが、「妻が大
切にしてきた教室だから」と、夫



新しい作品の写生、スケッチ



出品作品に仕上げの筆を入れる



平田先生のアドバイスを受けるメンバー

スケッチ、構想から創作完成まで3か月～1年をかけています



日本画の画材



いよいよ市美展に出品(搬入)



守山市日本画教室の皆さん(前列左から2番目は平田 豊先生)

で日本画家の豊さんが講師を引
き継ぎました。仲間の年齢も高
くなってきました。

当初、節子さんは教室を「自然
界は、すばらしい調和と真実を
秘めて美しく私達に迫り、また
誘いかけてくれております。絵
を描くことによりその一つ一つ
を発見し感動する。それが人間
としての喜びと思ひ仲間を励ま
し合っている」と紹介していま
した。それ以来、初心者から本
格派までが学び合い、楽しみ
あって継続してきました。

ベテランから初心者まで
楽しさが創作への原動力

現在23人の仲間が日本画の創
作を楽しんでいます。20年以
上前に日本画を知らず水彩画と
間違えて参加した仲間も、若い
頃から日本画が好きだった経験
者もいます。発足間もない頃か
らのベテランも参加1年目の仲
間もいます。

教室では年に2回程度のス
ケッチ会や、平田先生の畑で晩
秋の芋煮会などを楽しんでき
ます。そうした交流の写生やス
ケッチから描きたい画題も生ま
れるといえます。教室の仲間は
「出品しなくちゃ、描かなくっ

ちやと考えて画題を選んだ作
品はだめでね、出かけた先で
「これを描きたい」と思って創
った作品は評価してもらえない。
やっぱり絵画を楽しむには、感
動が大事なのだと思います」と
話していました。

日本の自然に最適な画法
日本画と仲間の魅力で継続

絵画には油彩や水彩など多様
なジャンルがあり、それぞれ魅
力がありますが、日本画を趣味
にする人は減ってきているそう
です。教室代表の操田順子さん
は「日本画の絵の具は思うよう
な色を出すのが難しい半面、思
いがけない色が出たりします。
私個人は色の一期一会が日本画
の魅力だと思っています。何か
を始めるのに年齢は関係ないの
で、新しい仲間が増えてくれた
ら」と話していました。また平田
先生は「日本画は日本の風土に
適した画法。とつきにくいと思
われがちだが、若い人にも広
がってほしいと思う」と話して
いました。

教室では絵の上手下手に関係
なく、自分の表現を楽しめる会
を目標に、これからも活動を続
けていきたいとしています。